

樽流し漁法指導

長嶺 巖

1. 日時：平成6年11月9日午前10時～午後5時

2. 参加者：根間 登志夫（指導漁業士）

根間 靖

根間 光弘

与那覇 吉嗣

3. 場所：下地島西側地先

4. 指導経過

漁場は下地島の西側、水深約250mでおこなった。漁具は5つ使い、内2つは樽を使わず、カゴを使用した。

10：00 荷川取漁港出航

10：30 漁場到着、魚探で漁具投入場所を探す。

11：15 漁具投入

11：50 投入終了

12：00 漁具巻揚開始（漁獲、ウチワフグ2尾）

1：50 巻揚終了、漁場を変える。

2：15 漁具投入

2：40 投入終了、昼食

3：00 漁具巻揚

（漁獲、メカジキ1尾、カンパチ2尾、ハナフエダイ4尾、レンコダイ2尾）

4：20 巻揚終了、帰港

5：00 荷川取漁港帰港

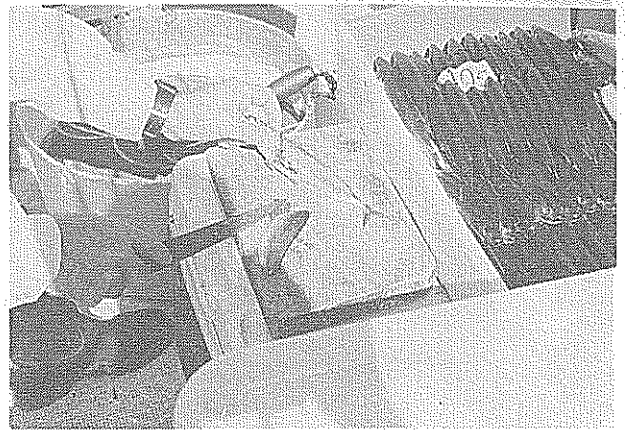
5. 指導結果

漁獲	ハナフエダイ	4尾	1.5 kg
	ウチワフグ	3尾	3.8 kg
	ヒレナガカンパチ	2尾	6.0 kg
	レンコダイ	2尾	1.5 kg
	メカジキ	1尾	5.5 kg
計			18,3 kg

- 漁具の投入では樽を使ったものは1つ～1～2分、使わないものは5～6分だった。
- 漁具の巻揚では、1つの漁具を揚げるのに、約20分の時間を消費した。
- 最初に操業をおこなった漁場よりも2回目の漁場のほうが水揚げがよかった。GPSを積んでいる船ならばその漁場の位置をうちこんで置いて、次からの操業に役立てることができる。
- 試験操業後、漁業者の反応は、操業作業が楽であるとの感想があった。与那覇吉嗣さんは荷川取漁港に帰港するなり、漁具を買いにいくほどこの漁法によせる関心がみうけられた。



○流し漁法タルの部分



エサはムロアジの切身



タルを使用しないもの



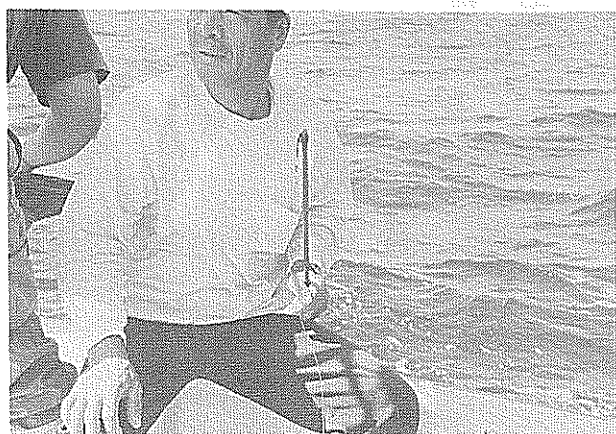
○しかけにエサをつける



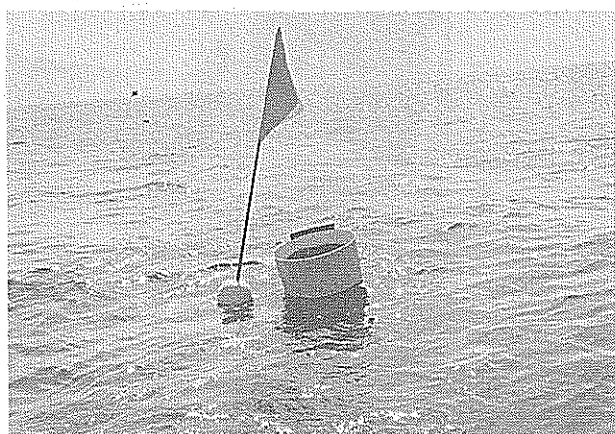
○船に付ししかけ



○タルと旗を連結



しかけと鉄筋を連結



タルを流した様子



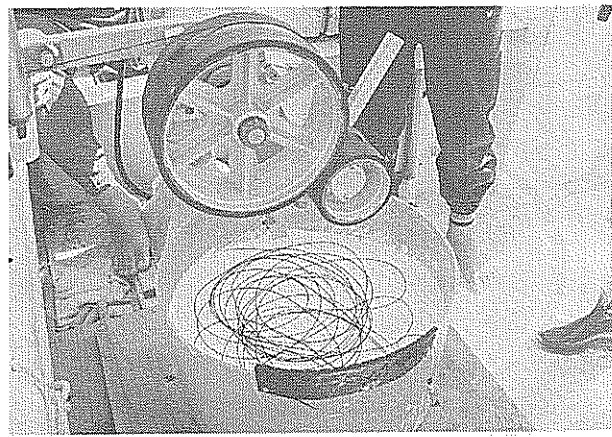
しかけをおろしているところ



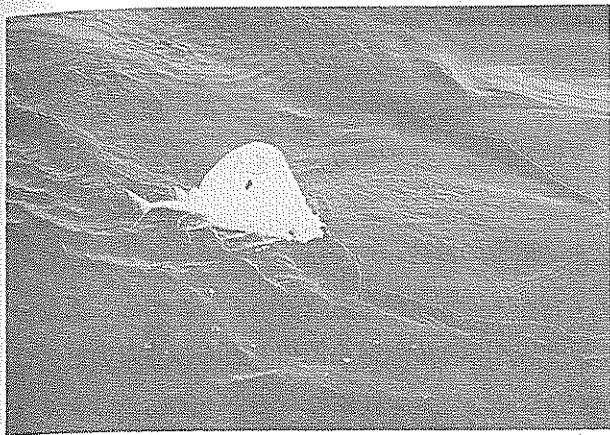
タル無し



しかけとロープを連結



ラインホーラーでしかけをあげる



釣れたウチワフゲ



昼食



漁獲した魚